

19	リスク要因に関する理解	<p>説明： 自分自身の非行に関連する要因や状況についての知識や理解の程度とともに、リスク管理方略に及び対処方略の活用についての自覚をチェックする。ここで、  「十分あり」とは、リスク要因やリスク管理方略をよく理解し、トリガー、認知の歪み（思考の誤り）、ハイリスク場面が分かりリスク管理の対処方略を使えることを、  「部分的にあり」とは、リスク要因やリスク管理方略を不完全にしか理解しておらず、一貫した対処行動を示せない状態を、  「不適切」とは、リスク要因やリスク管理方略をほとんど理解しておらず、トリガー、認知の歪み（思考の誤り）、非行を正当化する態度、ハイリスク場面、リスク管理方略を特定できない場合をいう。</p> <p>評定： <input type="checkbox"/>0：十分あり      <input type="checkbox"/>1：部分的にあり      <input type="checkbox"/>2：不適切</p>
20	共感性	<p>説明： 多様な場面における少年の共感能力をチェックする。この場合、誠実な感情を反映した言動と、認知や態度のみに根ざす言動（例、社会的望ましさを強調した反応、良く考えているが知的な理解のみが利いた反応）を区別すること。ここで、  「共感性あり」とは、性暴力被害者に誠実に共感的な感情を示す能力があり、他の場面にも一般化できそうな場合を、  「ある程度の共感あり」とは、共感的な言動は示しているが、知的な水準（頭の中での理解）に留まっていたり、外向けに良く見せようとする構えが窺える場合を、  「なし」とは、共感的な言動や他者の安寧を考慮する姿勢がほとんどない場合をいう。</p> <p>評定： <input type="checkbox"/>0：共感性あり      <input type="checkbox"/>1：ある程度あり      <input type="checkbox"/>2：なし</p>
21	自責の念・罪障感	<p>説明： 少年が非行や非行関連の行動に自責の念を反映するような思考、感情、心情（例、後悔、自己非難、罪障感情等）を示す程度をチェックする。ここでも、認知や態度のみに根ざす言動（例、社会的望ましさを強調した反応、知的な理解のみに留まる言動、単に「悪いと思います」というような表面的言動）を区別すること。ここで、  「罪障感あり」とは、被害者に対し誠実に自責の念を持ち、これが一般化できそうな場合を、  「ある程度の罪障感あり」とは、自責の念は認められるが、これが自信の恥や当惑などの自己中心的動機による場合、思考水準でしか自責の念が認められない場合を、  「なし」とは、被害者に対する罪障感がほとんど窺えない場合をいう。</p> <p>評定： <input type="checkbox"/>0：罪障感あり      <input type="checkbox"/>1：ある程度の罪障感あり      <input type="checkbox"/>2：なし</p>
22	認知の歪み	<p>説明： 性非行や非行一般を正当化させるような歪んだ思考、信念、態度をチェックする。この項目の評定は項目17（責任の受容）や21（自責の念・罪障感）の評定に左右されることなく、思考や態度の歪みを評価する。ここで、  「なし」とは、性非行や非行一般について思考や態度の歪みを窺わせる言動がない、  「多少あり」とは、思考や態度の歪みをうかがわせる言動が時折見られる、  「頻繁」とは、思考や態度の歪みが頻繁に現れる場合をいう。</p> <p>評定： <input type="checkbox"/>0：なし      <input type="checkbox"/>1：多少あり      <input type="checkbox"/>2：頻繁</p>
23	同世代の対人関係の質	<p>説明： 少年の同世代の対人関係の特質を、非行に関係のない社会的活動に占有されている時間や、交友関係が年齢相応で非行に関わらないものである程度という観点から評価する。ここで、  「適切」とは、社会的に活発で、めったに孤立せず、スポーツ等の社会的活動で友人があり、友人が非行少年でないこと、  「やや不適切」とは、非行少年でない友人が少数、ある程度社会的な活動に参加しているが、非行少年との関わりも見られる場合、  「不適切」とは、仲間関係から退避・孤立している、知り合いという程度の浅いつきあいしかない、仲間の大部分が非行少年の場合をいう。</p> <p>評定： <input type="checkbox"/>0：適切      <input type="checkbox"/>1：やや不適切      <input type="checkbox"/>2：不適切</p>

**セクションII（可変的リスク領域） 尺度4 社会内の安定性・適応尺度**

（評定留意事項） 尺度4は、過去6ヶ月の状況について評定する。原版では、施設内で処遇中はこの尺度を評定しないこととされているが、

- ① ベースラインを推定するため、対象者が施設収容中の場合は、施設収容前の6ヶ月の状況を評定し、
- ② 治療的介入の終了後の評定では、施設から地域社会に戻った際にどの程度の状態が期待されるか想定して説明を読み替えて、評定すること。

24	性衝動や性的欲求のマネジメント	<p>説明： 性衝動や性的欲求を社会的に適切かつ健康な仕方管理できる程度をチェックする。ここでは項目7（性欲動）のような性的行動の強度を査定するのではなく、信頼できる情報に基づき適切性を評価する。ここで、  「適切」とは、性的衝動・欲求が適切に管理されている状態（例、年齢相応の性的親密さが見られる、他者が望まない性的接触や敵対的・屈辱的な性的言動がない）。  「やや不適切」とは、性衝動・欲求は概ね適切だが、不適切な性的行動が数度ある。  「不適切」とは、性衝動・欲求の管理がずさんで、性衝動の充足を偏った仕方反復的に行う傾向が見られる（例、強迫的な自慰・ポルノ使用、乱脈な性交渉、合意を欠いた性行動すべて）</p> <p>評定： <input type="checkbox"/>0：適切 <input type="checkbox"/>1：やや不適切 <input type="checkbox"/>2：不適切</p>
25	怒りのマネジメント	<p>説明： 怒りの感情表現の適切性をチェックする。ここでは項目10の怒りの広範性を評価するのではなく、対人場面における怒りをどれだけ適切に管理できているかを評価する。ここで、  「適切」とは、怒りが言語を介して適切に表現され、粗暴な言動が見られないもの、  「やや不適切」とは、概ね適切だが、時折粗暴な言動が見られるもの、  「不適切」とは、頻繁に粗暴な言動が認められるものをいう。</p> <p>評定： <input type="checkbox"/>0：適切 <input type="checkbox"/>1：やや不適切 <input type="checkbox"/>2：不適切</p>
26	生活状況の安定性	<p>説明： 少年の家庭の生活状況の安定性を次のような条件を考慮し総合的にチェックする：養育者の別居、離婚、死別、失業、頻繁な転居、家族成員の薬物乱用、ポルノ使用、児童虐待、性的バウガリの緩さ、各種障害、喧嘩、家庭内暴力、犯罪など。ここで、  「安定」とは、重大な不安定要因が特にないこと、  「やや不安定」とは、間欠的に不安定な要素が認められること、  「不安定」とは、上記のような問題が毎週起こる場合や、間欠的であっても性的虐待や暴力がある場合をいう。</p> <p>評定： <input type="checkbox"/>0：安定 <input type="checkbox"/>1：やや不安定 <input type="checkbox"/>2：不安定</p>
27	学校（職場）における安定性	<p>説明： 学校における行動の安定性をチェックする（就労生活についている場合は、職場の安定性と読み替えて評定する）。不安定な場合は次のような行動が見られる場合をさす：怠学（怠休）、遅刻の反復、規則違反の反復、薬物乱用など。ここで、  「安定」とは、上記のような問題がほとんどないこと、  「やや不安定」とは、概ね安定しているが、時折、不適切な行動が見られること、  「不安定」とは、頻繁に不適切な行動が見られることをいう。</p> <p>評定： <input type="checkbox"/>0：安定 <input type="checkbox"/>1：やや不安定 <input type="checkbox"/>2：不安定</p>
28	ポジティブなサポート体制	<p>説明： 社会内で少年がポジティブなサポートを得られるサポート体制を評価する。サポート体制には①家族や近親者からのサポート、②友人からのサポート、③ケースワーカーや保護司など関係者からのサポート、④課外活動などを指す。  「十分あり」とは、3種類以上のサポートがある場合を、  「ややあり」とは、1～2種類のサポートがある場合を、  「なし」とは、サポート体制がないか、否定的なサポートが認められる場合（例、不良交友関係によるサポートなど）をいう。</p> <p>評定： <input type="checkbox"/>0：十分あり <input type="checkbox"/>1：ややあり <input type="checkbox"/>2：なし</p>
<p><b>セクションIII(原版にないリスク評価) 対象者のリスク要因の全般的状況のまとめ</b></p>		
<p>1 J-SOAP-IIのまとめ：本セクションでは、まずJ-SOAP-IIによるリスク評価に基づく対象者のリスクを、評点及び全般的な布置からまとめる。</p> <p>2 その他留意事項： J-SOAP-IIは、必ずしも少年のリスク要因を網羅しているものではないので、他に少年に固有なリスク要因が認められる場合は、この点も付記しておくこと（例、自閉性スペクトラムの障害等が性非行や一般非行の発現にも相当関与していると考えられる場合など）。</p> <p>3 全般的まとめ： 以上をもとに少年のリスク状況について全般的な見とおしを簡潔に記載する。</p>		

注： 入力例は資料3のEXCELサンプルシートを参照されたい。

トリートメントレビューシート

No.	氏名	生年月日(歳)	SH. . .
評定者	評定段階	初期・中期・終結期	評定日
評定項目	評価のポイント	評定(○, △, ×)及び特記事項	
<b>① 責任の受容</b>			
1 性非行の自認	否認をせずに性非行を受容できているか		
2 性非行の明細化	公的記録以上に性非行情報を出せているか		
3 罪障感	自分の性非行を誠実に悔いているか		
<b>② 再発防止の措置</b>			
1 認知の歪み	自分の認知の歪みに気づき説明できるか, その歪みを是正するための学習しているか		
2 性非行サイクル	自分の性非行サイクルに気づき説明できるか, また悪循環を抜け出す方策を学習しているか		
3 ハイリスク場面	自分のハイリスク場面に気づき説明でき, これを回避するすべを学習しているか		
4 性的関心・興奮のパターン	自分の性的関心や興奮のパターンがどのようなものか説明でき, その偏りを低下させることができているか		
5 侵襲的思考	少年は望ましくない性的思考はあるか, またそれを低減させることを学習しているか		
6 性的な構え	自分自身の性的嗜好に気づいており, 年齢相応に望ましい性的な態度を学習しているか		
7 潜在的な被害者を保護する構え	少年の言動には, 被害者の心の痛みを理解し, 潜在的な被害者の安全や福祉を守ろうとする態度が見られるか		
8 自身の被害体験	自身の被害体験を振り返り, 自分の問題との関連性を整理・理解できているか		
9 再発防止計画	非行の再発を防止するためのプランが考慮できており, 実現可能性は現実的か		
10 規則遵守	処遇中及び処遇後の規則を誠実に守ろうとする態度が見られるか		
11 再発の警戒必要性理解	再発防止のためには長期的な警戒が必要なことを過少評価せずに理解できているか		
12 家族の治療協力	家族は少年の治療に肯定的・積極的に関与しているか		
13 家族による少年リスク理解	家族は少年のリスクを過少評価せず正当に理解しているか		
14 家族のポジティブなモデル提示	家族は向社会的な行動を促すような肯定的なモデルを提示できているか		
15 家族の監督指導体制	家族は少年の非行の再発となるきっかけを意識し, そうした行動の生起に際して具体的に何をすれば良いか検討できているか		
<b>③ その他の関連するライフスタイルの変容</b>			
1 誠実な治療態度	少年は, 治療への取り組みで防衛やごまかし等をせず, 正直でオープンな態度が示せているか		

2	集団セッション参加態度	グループ内では直面化やサポート等の態度が意欲的かつ良好に示されているか		
3	攻撃的・反社会的態度	評定期間中に少年は、攻撃的・反社会的な言動に訴えず、適切な対処スキルや言動を示しているか		
4	性的に露骨な素材の使用や言動	評定期間中に少年は、性的に露骨な素材使用や言動に訴えることがなくなっているか		
5	良好な同世代の者との対人関係	評定期間中に少年は、反社会的な行動を支持するような仲間関係や孤立することなく、向社会的で健全な対人関係を持てるようになっているか		
6	被害者的な立場からの脱却	自己中心的な欲求や願望にこだわることなく、被害者、家族、地域社会のニーズを考えているか		
④	その他、少年に固有の評価事項 (右欄に項目を明記し評価する)			
⑤	治療動機づけと「変化の段階」 (変化の段階のどの段階にあり、介入に対しどのような反応や態度が見られるかをまとめる)	変化の段階：1 前考慮期, 2 考慮期, 3 準備期, 4 行動期, 5 維持期 コメント：		
⑥	介入経過まとめ (上記の評定を勘案の上、総合的な評価を行い、事後の介入課題などを記載する)			

〔注〕 各項目の評定は、次のように行う。

- 所期の目標をおおむね達成している。
- △ 達成状況は不十分である。
- × ほとんど進歩が見られない。

No.		名 前		記載日	(初期・中期・後期)
-----	--	-----	--	-----	------------

### 「ぼくのチャレンジ」

このシートは、みなさんが性非行のプログラムに参加する際の感想や進歩の様子について、みなさんの考えを知るためのものです。自分をふりかえって、いま感じていることや考えていることを自由に書いてください。

#### 1 ぼくの問題

どのような問題が自分の性非行に関係していると思いますか？今考えていることを書いてください。

#### 2 問題の解決のためには

その問題の解決のためには何をしたら良いと思いますか？今考えていることを書いてください。

#### 3 自分の与えた被害について

自分の起こした性非行のため被害をうけた人がいますが、あなたはそのことをどのように思っていますか？今の気持ちを書いてください。

4 同じような問題が起こるのをふせぐため、これからぼくはどうすればいいんだろう  
これから同じような問題が起こるのをふせぐためには、自分は何をしたらいいでしょうか？いまあなた  
が考えていることを書いてください。

5 プログラムに参加について

次の質問で、あてはまるところに○をつけてください。また、プログラムについての疑問や要望  
があれば自由に書いてください。

a. プログラムに参加する気はどのくらいですか？

ア とてもやる気がある      イ まあまあやる気がある      ウ あまりやる気がしない

b. プログラムは自分のためになりますか？

ア とてもためになる      イ まあまあためになる      ウ あまりためにならない

c. プログラムに参加して自分は変わりますか？

ア とても変わると思う      イ 少しは変わると思う      ウ ぜんぜん変わらないと思う

d. プログラムに参加して自分に役立ったことやこれから役立つと思うことにはどんなことがあり  
ますか？自由に書いてください。

e. プログラムに参加する（した）時に、良く分からないことやいやなことがあったら、自由に書  
いてください。

f. その他プログラムについての感想、疑問、要望などがあれば自由に書いてください。

## 女子の性体験や異性関係についてのアンケート調査のお願い

私たちは、「非行」と呼ばれるさまざまな行為によって施設に入所した女の子たちが、施設を出た後、自分も人も傷つけない生き方をしていくにはどうすればよいのか、特に女の子の場合、大切な意味をもつ「性体験」や「人との関係の持ち方」について、どうしていくことがよいのか、それを実現するために私たちにどのようなお手伝いができるかを考えています。

そのためにはまず、女の子たちがどのような経験をしてきたのか、どのように考え、行動してきたのかを知る必要があります。これは実際に体験した人たちに「聞いてみなければわかりません」。それで、施設の先生にお願いして、みなさんに直接ご自分の体験をうかがうことにしました。率直に教えていただければとても助かります。

答えていただいた内容については、誰がそう答えたのかといった個人の名前を知る必要はありません。すべて、こう答えた人が何人（どのくらいの割合）いたというように「数」で考えていきます。「性」に関する質問が多く含まれているので、答えにくいものもあるかもしれませんが、あなたが「何をどう答えたか」は、あなた個人のプライバシーや施設での成績・評価に影響することはありませんので、正直に答えていただけるとありがたく思います。

何かわからないこと、困ったことがある場合は、アンケートを実施している先生に聞いてください。これから施設に入所してくる女の子たちの役に立てるような方法を考えるための大切な情報となりますので、ぜひ、ご協力ください。

問1 あなたは何歳なんさいですか？

歳さい

問2 今回施設こんかいしせつに入所にゅうしょする原因げんいんとなった非行ひこうは何なんですか？主なものの一つ○をつけてください。

- 1 窃盗せつとう 2 薬物やくぶつ 3 家出・援助交際等 4 暴力行為ぼうりょくこうい 5 傷害しょうがい  
6 その他( )

問3 施設入所前は何をしていましたか？ひとつに○をつけてください。

- 1 小・中学生 2 高校生 3 仕事しごと( ) 4 無職むしょく 5 主婦しゅふ

問4 (入所前)両親りょうしんとどのくらい話をしていましたか？ひとつに○をつけてください。

- 父親 いない 1 全くまったしない 2 あまりしない 3 まあする 4 よくする  
母親 いない 1 全くまったしない 2 あまりしない 3 まあする 4 よくする

問5 家出いえでをしたことがありますか？

- 1 ある ⇒親は、1 全く心配しんぱいしなかった 2 あまり心配しんぱいしなかった  
3 少し心配しんぱいした 4 とても心配しんぱいした  
5 わからない 6 その他( )  
2 ない

問6 ①私には女友だちが( )人いる。

そのうち本当に信頼しんらいできるのは( )人いる。

②私には男友だちが( )人いる。

そのうち本当に信頼しんらいできるのは( )人いる。

問7 ①入所前かれしに彼氏が 1 いなかった 2 いた

②今までにつきあった彼氏は、( )人

問8 どのような時には、セックスしてもよいと思いますか？

- 1 決まった交際相手に限る 2 気が合えば良い  
3 相手にかかわらず自分がしたいとき 4 お金やものをもらえる  
5 その他( )

問9 あなたは、自分が一人ぼっちだと感じることはありませんか？

- 1 いつも感じる 2 時々感じる 3 あまり感じない 4 まったく感じない

問10 あなたは自分のことが好きですか？

- 1 きらい 2 あまり好きではない 3 わりと好き 4 とても好き



問 11 自分で自分を傷つけたことがありますか？

- 1 ある どんな風<sup>ふう</sup>に ( ) 2 ない  
その理由<sup>りゆう</sup>⇒

問 12 死にたいと思ったことがありますか？

- 1 実行してみた 2 ある (思っただけ) 3 ない 4 わからない  
その理由<sup>りゆう</sup>⇒

問 13 アルコール、タバコ、ドラッグについて、やったことはありますか？

アルコール 1 よく 2 ときどき 3 1度だけ 4 ない

タバコ 1 よく 2 ときどき 3 1度だけ 4 ない

ドラッグ 1 よく 2 ときどき 3 1度だけ 4 ない

ドラッグをやった人は、どんなドラッグですか？すべてあげてください。

( )

③ ドラッグをやった理由⇒

問 14 生まれ変わるとしたら、男と女、どちらに生まれ変わりたいですか？

1 男 2 女 3 分からない

その理由<sup>りゆう</sup>⇒

問 15 男らしさ、女らしさとはどのようなことだと思えますか。あなたの思うイ

メージを自由に書いてください

男らしさ⇒

女らしさ⇒

問 16 性感染症<sup>せいがんせんしょう</sup>について知っているもの<sup>もの</sup>にいくつでも○をつけてください

- 1 HIV／エイズ 2 尖圭<sup>せんけい</sup>コンジローマ 3 クラミジア  
4 性器<sup>せいき</sup>ヘルペス 5 淋病<sup>りんびょう</sup> 6 梅毒<sup>ばいどく</sup> 7 その他 ( )

問 17 どうすれば<sup>ひにん にんしん</sup>避妊(妊娠しないようにすること)できるか知っていますか？  
知っていることを書いてください

問 18 性にかかわるあなたの<sup>こうどう</sup>行動や考え方に、これまでどんな人やものが<sup>えいきょう</sup>影響  
を与<sup>あた</sup>えたと思いますか？(一番影響を受けたものに◎を、その他影響を受けたもの  
に、いくつでも○をつけてください)

- 1 父親<sup>おや</sup> 2 母親 3 兄弟<sup>きょうだい</sup> 4 姉妹<sup>しまい</sup> 5 男友達 6 女友達  
7 男の先輩<sup>せんぱい</sup> 8 女の先輩 9 恋人 10 教師<sup>きょうし</sup> 11 学校の授業<sup>がっこうのじゅぎょう</sup>  
12 新聞や雑誌<sup>しんぶん ざっし</sup> 13 まんが、コミック  
14 その他の本(具体的にあれば )  
15 テレビ・ラジオ 16 ビデオ 17 インターネット  
18 その他 ( ) 19 特にない

問 19 初潮<sup>しよちよう</sup>(初めて生理<sup>せいり</sup>があった時)について

- ①初潮<sup>しよちよう</sup>はありましたか？  
1 まだない 2 あり ( ) 歳  
②その時、誰<sup>だれ</sup>かに話<sup>はな</sup>しましたか？  
1 話してない 2 話した 誰に ( )  
③その時、どんな気持ちでしたか？  
1 うれしかった 2 いやだった 3 なにも思わなかった  
4 その他 ( )

問 20 最初<sup>さいしよ</sup>のセックスについて

- ①何歳の時ですか？  
1 経験なし 2 経験あり ( ) 歳  
②その時自分が望<sup>のぞ</sup>んでしまったか？  
1 自分から 2 望まれて 3 無理やり 4 その他 ( )  
③その時の気持ちはどうでしたか？  
1 うれしかった 2 いやだった 3 なにも思わなかった  
4 その他 ( )  
その理由⇒

問 21 好きな人との関係を強めるためにセックスをすることが必要だと思いませんか？（ひとつに○をつけてください）

- 1 まったく必要ではない 2 それほど必要ではない 3 かなり必要  
4 ぜったい必要 5 わからない

その理由⇒

問 22 セックスの際、避妊していますか？

- 1 まったくしない 2 あまりしない 3 たいていする 4 必ずする

その理由⇒

問 23 妊娠したことがありますか？

- 1 2回以上したことがある 2 1回したことがある 3 ない

問 24 問 23 で妊娠したことがあると答えた方、妊娠がわかったときどのような気持ちでしたか？

- 1 困った 2 わからない 3 うれしい 4 その他（ ）

その理由⇒

問 25 妊娠したことを誰かにはなしましたか？話した人みんなに○をつけ、そのうち最初に話した人には◎をつけてください。

- 1 誰にも話さない 2 父親 3 母親 4 兄弟 5 姉妹  
6 男友達 7 女友達 8 男の先輩 9 女の先輩  
10 お腹の子の父親である彼氏 11 お腹の子の父親ではない彼氏  
12 その他（ ）

問 26 問 25 で話したと答えた人は、話してよかったですか？

- 1 話さなければよかった 2 どちらとも言えない 3 話してよかった

その理由⇒

問 27 妊娠したことがあると答えた方、妊娠中絶をしたことがありますか？

- 1 2度以上ある 2 1度ある 3 ない

問 28 問 27 で中絶したことのある人は、その体験をどう受け止めましたか？  
1 ほっとした 2 仕方ない 3 後悔した 4 わからない  
5 その他( )

問 29 マスターベーションをしたことがありますか？  
1 よくする 2 たまにする 3 あまりしない 4 しない

問 30 マスターベーションについて、知っていることや思っていることを自由に書いてください。

問 31 あなたはということが性暴力（性に関連した暴力）だと思えますか？あなたが考える性暴力について、自分のイメージで自由に書いてください

問 32 以下のことをやったことがありますか？

(1) ナンパや出会い系サイトで知り合った見知らぬ人と食事やカラオケ、ドライブなどに行ったことがありますか？

① 1 たくさんある 2 何度かある 3 1回だけある 4 ない

②したことがある人は、そのきっかけは何でしたか？

1 興味(好奇心から) 2 むしゃくしゃして 3 誘われて 4 だまされて

5 おどされて 6 お金がほしくて 7 その他( )

③ 他の女の子たちはどれくらいしていると思いますか？

100人中( )人くらいしている

(2) 相手の人からお金や高価なものをもらってフェラチオやセックスなどをしたことがありますか？

① 1 たくさんある 2 何度かある 3 1回だけある 4 ない

②したことがある人は、そのきっかけは何でしたか？

1 興味(好奇心から) 2 むしゃくしゃして 3 誘われて 4 だまされて

5 おどされて 6 お金がほしくて 7 その他( )

③ 他の女の子たちはどれくらいしていると思いますか？

100人中( )人くらいしている

(3) 自分の制服せいふくや下着したぎを売ったり、アダルトビデオなどに出演しゅつえんしてお金や高価なものをももらったことがありますか？

① 1 たくさんある 2 何度かある 3 1回だけある 4 ない

② したことがある人は、そのきっかけは何でしたか？

1 興味きょうみ(好奇心こうきしんから) 2 むしゃくしゃして 3 誘われて 4 だまされて

5 おどされて 6 お金がほしくて 7 その他( )

③ 他の女の子たちはどれくらいしていると思いますか？

100人中( )人くらいしている

(4) セックスするとうそをついて呼び出してお金をとったり、シャワーを浴びている間にお金等を盗んで逃げたりしたことがありますか？

① 1 ない 2 1回だけある 3 何度かある 4 たくさんある

② したことがある人は、そのきっかけは何でしたか？

1 興味きょうみ(好奇心こうきしんから) 2 むしゃくしゃして 3 誘われて 4 だまされて

5 おどされて 6 お金がほしくて 7 その他( )

③ 他の女の子たちはどれくらいしていると思いますか？

100人中( )人くらいしている

(5) 男の人(子)にほかの女の人(子)をレイプするようにたのんだことがありますか？

① 1 たくさんある 2 何度かある 3 1回だけある 4 ない

② したことがある人は、そのきっかけは何でしたか？

1 興味きょうみ(好奇心こうきしんから) 2 むしゃくしゃして 3 誘われて 4 だまされて

5 おどされて 6 お金がほしくて 7 その他( )

③ 他の女の子たちはどれくらいしていると思いますか？

100人中( )人くらいしている

(6) セックスしたい人に女の子を紹介してお金などをもらったことがありますか？

① 1 たくさんある 2 何度かある 3 1回だけある 4 ない

② したことがある人は、そのきっかけは何でしたか？

1 興味きょうみ(好奇心こうきしんから) 2 むしゃくしゃして 3 誘われて 4 だまされて

5 おどされて 6 お金がほしくて 7 その他( )

③ 他の女の子たちはどれくらいしていると思いますか？

100人中( )人くらいしている

(7) 男の人(子)の服をむりやり脱がせて写真やビデオなどを撮ったことがありますか？

① 1 たくさんある 2 何度かある 3 1回だけある 4 ない

② したことがある人は、そのきっかけは何でしたか？

1 興味(好奇心から) 2 むしゃくしゃして 3 誘われて 4 だまされて

5 おどされて 6 お金がほしくて 7 その他( )

③ 他の女の子たちはどれくらいしていると思いますか？

100人中( )人くらいしている

(8) 女の人(子)の服をむりやり脱がせて写真やビデオなどを撮ったことがありますか？

① 1 たくさんある 2 何度かある 3 1回だけある 4 ない

② したことがある人は、そのきっかけは何でしたか？

1 興味(好奇心から) 2 むしゃくしゃして 3 誘われて 4 だまされて

5 おどされて 6 お金がほしくて 7 その他( )

③ 他の女の子たちはどれくらいしていると思いますか？

100人中( )人くらいしている

(9) 男の人(子)の性器に、相手が嫌がっているのに、触ったことがありますか？

① 1 たくさんある 2 何度かある 3 1回だけある 4 ない

② したことがある人は、そのきっかけは何でしたか？

1 興味(好奇心から) 2 むしゃくしゃして 3 誘われて 4 だまされて

5 おどされて 6 お金がほしくて 7 その他( )

③ 他の女の子たちはどれくらいしていると思いますか？

100人中( )人くらいしている

(10) 女の人(子)の性器に、相手が嫌がっているのに、触ったことがありますか？

① 1 たくさんある 2 何度かある 3 1回だけある 4 ない

② したことがある人は、そのきっかけは何でしたか？

1 興味(好奇心から) 2 むしゃくしゃして 3 誘われて 4 だまされて

5 おどされて 6 お金がほしくて 7 その他( )

③ 他の女の子たちはどれくらいその行為をしていると思いますか？

100人中( )人くらいしている

問 33 以下のことをされたことがありますか？二度以上ある場合は、その中で自分にとって一番影響が大きかったり、印象が強かったと思うものについて答えてください。

① 体について、からかわれたり、いやらしいことを言われた。

1 ある ( ) 才ころ 誰に ( ) 2 ない

② 人の裸や性器をわざと見せられた。

1 ある ( ) 才ころ 誰に ( ) 2 ない

③ 無理やり、体を触られたり、抱きつかれた。

1 ある ( ) 才ころ 誰に ( ) 2 ない

④ 無理やりセックスをされそうになった。

1 ある ( ) 才ころ 誰に ( ) 2 ない

⑤ 無理やりセックスをされた。

1 ある ( ) 才ころ 誰に ( ) 2 ない

⑥ 携帯電話，出会い系サイト，インターネットで性的にいやな体験をした。

1 ある ( ) 才ころ 誰に ( ) 2 ない  
どのようなことですか？ ( )

⑦ その他 ( )  
( ) 才ころ 誰に ( )

問 34 ①～⑦で経験があった場合、その中で一番ひどく影響を受けたのは何番ですか？ ( ) 番

その理由⇒

問 35 問 34 で答えてくれた経験について、誰かに話しましたか？

① 1 話さない 2 話した ⇒ (誰に )

問 36 問 35 で話したと答えた方、話してよかったと感じましたか？

1 話さなければよかった 2 どちらとも言えない 3 話してよかった  
その理由⇒

問 37 性の被害体験が、今あなたが施設に入所していることと関係していると思いますか？

- 1 関係ない 2 あまり関係ない 3 少し関係ある 4 とても関係ある  
5 わからない

その理由⇒

問 38 二度と施設に入らず、自分も人も傷つけずに生きていくために、あなたは何ができると思いますか？自由に答えてください。

問 39 問 38 の答えを実現するために、周囲の人が手助けできることはありますか？

- 1 ない  
2 ある どんなこと?⇒

3 わからない

問 40 このアンケートに回答してみて、何か気がついたことや感じたことがあれば、自由に書いてください。

以上でアンケートは終わりです。もう一度、回答で抜け落ちているところがないか確認して先生に提出してください。

さいごまで熱心にアンケートにご協力いただきありがとうございました。



## 高機能広汎性発達障害における行為の問題に対する検討

分担研究者 市川宏伸

研究協力者 成重竜一郎

東京都立梅ヶ丘病院

### 研究要旨

行為障害と広汎性発達障害の合併及びその関連について検討すべく平成15・16年度における都立梅ヶ丘病院入院症例から精神遅滞を伴わない行為障害症例52例、精神遅滞を伴わず行為の問題を呈した広汎性発達障害症例53例を対象とし、両者の比較を行った。性比、年齢に関しては広汎性発達障害症例においてその疫学的特徴が現れていると考えられた。また行為の問題を呈する広汎性発達障害症例においても行為障害症例同様家庭状況との関連が大きいことが示唆された。さらに広汎性発達障害症例では行為の問題が社会化しにくく、家庭限局例が多かった。広汎性発達障害例は家庭限局性行為障害の中核群に位置することが想定され、両者の合併は積極的に考慮すべきものであると考えられた。

### A. 研究目的

昨年度の研究<sup>3)</sup>において行為障害の入院治療の実態に関して検討を行ったが、その後の研究の中で行為障害と広汎性発達障害の合併例に対する更なる検討の必要性が示唆された。

広汎性発達障害症例において行為の問題は少なからず認められるが、行為障害との合併に関しては診断基準上の問題がある。すなわちDSM-IV-TR<sup>4)</sup>において行為障害と広汎性発達障害の合併が認められているが、ICD-10<sup>5)</sup>において広汎性発達障害は行為障害の除外診断となっている。このため行為の問題を呈する広汎性発達障害の症例で、行為障害の診断基準を満たすような場合もICD-10上は行為障害の合併と診断することはできず、広汎性発達障害単独の診断となる（図1、図2）。

本研究では行為の問題を呈する広汎性発達障害症例と行為障害症例の比較を行うことで、行為の問題を呈する広汎性発達障害症例の特徴を明らかにし、行為障害と広汎性発達障害の関連性、両者の合併の診断的妥当性について検討を行っ

た。

なお、本研究においては行為の問題に関する知能の影響を排除するため、広汎性発達障害症例、行為障害症例共に精神遅滞を合併しない症例を対象とした。

### B. 研究方法

平成15年4月1日から平成17年3月31日の期間において都立梅ヶ丘病院で入院治療を受け退院した症例679例を対象とした。

行為障害症例は主診断あるいは副診断で行為障害と診断されていた症例中精神遅滞を合併しない症例を抽出した。一方広汎性発達障害症例は主診断あるいは副診断で広汎性発達障害と診断されていた症例中精神遅滞を合併しない症例を抽出し、その中からさらに入院時主症状として暴力等の行為の問題があった症例を抽出した。

なお研究に必要な情報は入院診療録、入院経過要約の記載によるものとし、診断はICD-10の分類に基づいて行った。

## C. 研究結果

### 1. 対象症例

対象期間中における精神遅滞を合併しない行為障害症例は 52 例であった。その内訳は性別では男性 35 例 (67.3%)、女性 17 例 (32.7%)、下位診断別では F90.1 (多動性行為障害) が 25 例、F91.0 (家庭限局性行為障害) が 6 例、F91.1 (非社会性行為障害) が 11 例、F91.2 (社会性行為障害) が 6 例、F91.3 (反抗挑戦性障害) が 4 例であった。

一方対象期間中における精神遅滞を合併しない広汎性発達障害症例は 90 例であり、その中で行為の問題を入院時主症状としていた例は 53 例であった。その内訳は性別では男性 44 例 (83.0%)、女性 9 例 (17.0%)、下位診断別では F84.0 (小児自閉症) が 12 例、F84.5 (アスペルガー症候群) が 15 例、F84.8 (他の広汎性発達障害) が 26 例であった (表 1)。

平均入院回数は行為障害 (以下 CD) 例で 1.5 ( $\pm 0.8$ S.D.) 回、広汎性発達障害 (以下 PDD) 例で 1.3 ( $\pm 0.7$ S.D.) 回であり、両者に有意な差は認められなかった (Mann-Whitney 検定)。

平均在院日数は CD 例で 228.1 ( $\pm 202.0$ S.D.) 日、PDD 例で 219.2 ( $\pm 194.5$ S.D.) 日であり、両者に有意な差は認められなかった (Student の t 検定) (表 2)。

### 2. 患者因子

CD 例と PDD 例の患者因子として性、年齢について比較を行った (表 3)。

性別では CD 例で男女比 35:17 に対し、PDD 例で男女比 44:9 であり、いずれも男性例が多かった。比率としては PDD 例でより男性の割合が大きかったものの、統計的有意差は認められなかった (カイ 2 乗検定)。

入院時の平均年齢は CD 例で 13.7 ( $\pm 3.0$ S.D.) 歳に対し、PDD 例で 12.3 ( $\pm 3.2$ S.D.) 歳であり、CD 例より PDD 例

で平均年齢は有意に低かった (Student の t 検定、 $p < 0.05$ )。

行為の問題の発症年齢は CD 例で平均 10.4 ( $\pm 3.4$ S.D.) 歳に対し、PDD 例で平均 9.4 ( $\pm 3.0$ S.D.) 歳であり、数値上は PDD 例でより低かったが、統計的有意差は認められなかった (Student の t 検定)。

### 3. 背景因子

CD 例と PDD 例の背景因子として家庭状況について比較を行った (表 4)。

離婚、死別、別居、未婚等の理由で一人親の症例は CD 例で 26 例 (50.0%) に対し、PDD 例で 20 例 (37.7%) であり、両者間で有意な差は認められなかった (カイ 2 乗検定)。

施設入所例は CD 例で 8 例 (15.6%) に対し、PDD 例で 6 例 (11.3%) であり、両者間で有意な差は認められなかった (カイ 2 乗検定)。

### 4. 症状の社会化

ICD-10 における行為障害の分類では行為の問題が社会化されている程度によって家庭限局性行為障害 (F91.0)、非社会性行為障害 (F91.1)、社会性行為障害 (F91.2) と分類されている。今回 PDD 例に関しても社会化の程度によって家庭限局型、非社会化型、社会化型に、さらにかんしゃくが主体の例を反抗挑戦型として分類し、CD 例との比較を行った。

PDD 例において行為の問題が家庭に局限する家庭限局型は 53 例中 25 例 (47.2%) であった。一方 CD 例では F91.0 が 6 例 (11.5%) であり、PDD 例で有意に行為の問題が家庭に局限する例が多かった (カイ 2 乗検定、 $p < 0.01$ ) (表 5)。

また PDD 例において行為の問題が家庭内に局限しない例 28 例の内 19 例は仲間関係をもたない非社会化型であり、9 例はかんしゃく主体の反抗挑戦型であった。PDD 例の中で仲間関係をもつ社会化型は認められな

かった。

#### D. 考察

本研究では行為の問題を呈する広汎性発達障害の特徴、関連を明らかにすべく行為障害との比較を行ったが、その中でいくつかの特徴が浮かび上がってきた。以下項目に分けて考察を行っていく。

##### ①年齢、性比

広汎性発達障害例と行為障害例で行為の問題の平均発症年齢に5%水準で統計的有意差は認められなかったが広汎性発達障害例の方が若干低年齢であり、入院時の平均年齢では広汎性発達障害例の方が有意に低年齢であった。広汎性発達障害例の場合、行為の問題が事例化する以前より広汎性発達障害としての症状、適応上の問題などが出現していることが考えられ、こうした症状や問題が行為の問題の基盤になっていることが想定される。

また広汎性発達障害例、行為障害例共に男性例が多いが、広汎性発達障害例では行為障害例より男性の比率が5%水準で有意差は認められなかったが若干大きくなっていった。広汎性発達障害例はそもそも男性例が多く、その中から男性に多い行為の問題を呈する例をさらに抽出したため、広汎性発達障害例で男性の割合がより大きくなったことが考えられる。

以上のように今回の研究で認められた広汎性発達障害例と行為障害例との年齢、性比の違いは広汎性発達障害の疫学的特徴が反映しているものと考えられる。

##### ②家庭状況

昨年度の研究において行為障害と家庭状況との関連の深さが示唆されていた。本研究においても行為障害例中一人親家庭が半数であり、行為障害と家庭状況との関連の深さが想定される結果であった。一方広汎性発達障害例において一人親家庭は四割弱であり、割合としては行為障害例よりも小さかったが行為障害例と統計的な差は認められなかった。このことから行為の問題を呈す

る広汎性発達障害に関しても、行為障害同様家庭状況との関連が深いことが考えられ、純粋に発達障害的要因のみで行為の問題が起きるわけではないことが示唆される。

##### ③症状の社会化

反抗挑戦型も行為障害中の反抗挑戦性障害例の割合より大きく、行為の問題自体が軽症である例も目立ったが、個々の例を検討すると必ずしも問題が軽微であるわけではなく、広汎性発達障害という診断が無ければ多くは行為障害と診断すべき症例であった。

本研究において行為の問題を呈する広汎性発達障害例では家庭限局型が最も多く、一方で社会化型は認められなかった。このことから広汎性発達障害例の行為の問題は社会化しにくく、中核群は家庭限局型であることが考えられる。

さらには家庭限局例全体を考えた場合でも、行為障害例6例に対し広汎性発達障害例25例であり、統合失調症例等行為の問題以外の症状が主体の症例を除けば、当院入院例における家庭に限局した行為の問題の中心は広汎性発達障害例であると言える。

これらの結果より家庭に限局した行為の問題を呈する症例に関しては臨床上広汎性発達障害との関連、合併を積極的に検討する必要があると考えられる。

広汎性発達障害と家庭に限局した行為の問題との関連に関しては従来から言われている家庭内暴力児の性格傾向からも推察することができる。家庭内暴力児の性格傾向として、例えば本城<sup>2)</sup>は「強迫的な性格傾向、他者配慮性あるいは他者過敏性、対人関係の希薄性、自己中心性」という4点を挙げており、また稲村<sup>4)</sup>は「過敏・心配性、小心、強迫的固執的、自己中心、わがまま、依存的、自尊心が強い反面で身体や能力に関する劣等感が強い、柔軟性に乏しい、耐性欠如、完全欲や向上欲が強い」等を挙げている。さらに他の報告<sup>5)6)</sup>においても家庭内暴力児の強迫性、対人関係における内向性ないし過敏性、自己中心性は概ね一致している。こうした家庭内暴力児の性格

傾向として挙げられている特徴の多くは特に思春期以降の広汎性発達障害児の特徴と重なる部分が多く、広汎性発達障害において家庭内暴力と親和性が高いことが想定される。

また家庭に限局した行為の問題は、先の性格傾向でも示したように対人関係において受動的ないし孤立傾向が強い例で出現することが多く、実際に学校等集団生活における挫折、不適応が発症に影響している場合が多い。これより家庭に限局した行為の問題においては社会適応力の低さがリスクファクターとなっていることが想定される。一方広汎性発達障害においては社会性の障害が中核的的症状として挙げられている通り、高機能例であっても社会適応力の低さは目立ち、実際に思春期以降で社会生活上の困難を訴える例がしばしば認められる。こうした広汎性発達障害の社会的場面での困難さが家庭に限局した行為の問題との親和性を高めていることが考えられる。

広汎性発達障害と行為障害の関連を考えた際、社会的な広がりには乏しい広汎性発達障害例は行為障害の中核群との比較において臨床像における差が大きいと考えられる。しかし『家庭限局性行為障害』という枠組みで社会的な広がりを限定した場合、広汎性発達障害例は社会性の障害や性格特徴からむしろその中核群に位置することが想定される（図 3、図 4）。本研究において両者の間における極めて密接な関連が示唆されており、両者の合併を考慮することは臨床的意義も大きいと思われる。

## E. 結論

行為の問題を呈する広汎性発達障害症例と行為障害症例の比較を行い、両者の合併及び関連性について検討を行った。行為障害症例と広汎性発達障害症例で平均入院回数、平均在院日数、行為の問題の平均発症年齢に有意な差は認められなかったが、性比、年齢においては広汎性発達障害の疫学的特徴が現れていると考えられた。また行為の問題を呈する広汎性発達障害症例においても行為障害症例同様家庭状況との関連が大きい

ことが示唆された。

さらに広汎性発達障害症例では行為の問題が社会化されにくく、特に家庭限局例が多いことが示された。家庭限局性行為障害は広汎性発達障害で出現しやすい状態像を表していると考えられ、ICD-10 では両者の合併は許されないが、『家庭限局性行為障害』という状態像から広汎性発達障害の併存・合併を考慮することは臨床的意義が大きいと考えられた。また DSM-IV-TR では行為障害と広汎性発達障害の合併は許されているものの、行為障害の診断上社会的な広がりが考慮されておらず、広汎性発達障害との関係において『家庭限局』という特徴的な状態像が抜け落ちてしまう点で問題があると考えられた。

## 参考文献

- 1) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders DSM-IV-TR (Text Revision). American Psychiatric Association, Washington, D.C., 2000
- 2) 本城秀次: 登校拒否, 家庭内暴力の病前性格と治療関係. 精神科治療学 5(9): 1143-1153, 1990
- 3) 市川宏伸, 成重竜一郎, 鈴木俊介: 行為障害の入院治療. 厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業) 児童思春期精神医療・保健・福祉の介入対象としての行為障害の診断及び治療・援助に関する研究 平成 16 年度 総括・分担研究報告書: 85-89, 2005
- 4) 稲村博: 家庭内暴力の病理と治療. 精神科治療学 4(6): 691-697, 1989
- 5) 緑川尚夫, 佐藤光義, 平尾美生子: 家庭内暴力の臨床的研究—形成要因を中心に. 昭和 57 年度都立教育研究所紀要 26: 1-56, 1982
- 6) 佐藤達彦, 臼井宏, 池田八郎ほか: 思春期家庭内暴力の臨床的研究. 季刊精神療法 7: 352-362, 1981
- 7) 手島ちづ子: 思春期家庭内暴力—精神科外